

琉球大学学術リポジトリ

米国管理下の南西諸島状況雑件 啓発・広報(V)

| | |
|-------|--|
| メタデータ | 言語: 出版者: 公開日: 2019-02-01 キーワード (Ja): 在沖縄米軍関係者, 現地広報活動, 米国財務長官来日, 大臣内奏用資料, 返還協定に関する報道, 国会への中間報告, 寄稿・広報資料、返還協定反対論, 自民党, 公用地等の暫定使用, 沖縄復帰祝典 キーワード (En): 作成者: - メールアドレス: 所属: |
| URL | http://hdl.handle.net/20.500.12000/43487 |

心齋院 一四一 卷五 (昭四七二五十一)



資料作成に協力方依頼の件

当政策審議会では、議員の参考に供するため、例年別添のような「一問一答集」を作成して参りました。

今年もまた同様のものを作成いたしますので、その素材となるべきものを、左の要領によりご提出願いたいと思います。

ご多用中ご迷惑とは存じますが、ご協力方お願い申し上げます。

昭和四十七年二月三日

参議院自由民主党政策審議会

会長 塚田 十一郎

官 房 長 殿

要 領

- 一、各省庁所管の重要事項について、特に国民一般に関心が強いと認められる問題を取り上げて下さい。
- 二、今国会に提出される法案や予算は通過成立することを予定して記述して下さい。
- 三、各省庁で取り上げる問題の数、記述の繁簡は、既刊「一問一答集」を基準として下さい。
- 四、ある問題についての記述は、その問題に含まれるあらゆる事項を網羅するのでなければ不完全であるかもしれませんが、資料の性質上、網羅的であるよりは、重点をしぼった記述でありたいと思います。
- 五、ご提出を受けた資料には当方で適宜加除を加えることがあることをお含み置き下さい。従って文責は当方にあります。
- 六、期 限 二 月 末 日

(連絡者) 清水 (参院本館三階 第二十四控室)

電話 (五八一) 三一一一一 (内線) 二二二六

条約課長

安全保障課長

アメリカ局長

参事官

北米第一課

参議院議員に付て参考用

「一内一答集」原稿(案)について

47.2.10.
米北一

参議院自民党政策審議会より国会院を通じ
作成依頼のあった本件一内一答集原稿に

関し、沖縄問題について、別紙のとおり、次の
3点を提出しは如何かと存じませう。

内1. 沖縄の復帰日付、どうして5月15日に決めた
のでしょうか。

内2. 沖縄の核抜き区画は、本当に間違
ないのでしょうか。

内3. 復帰後の沖縄の米軍基地は、整理
縮小せしめようか。

GA-5

3601 外務省

内1. 沖縄の復帰日付、どうして5月15日に

決めたのでしょうか。

答 沖縄の一日も早い本土復帰は、

沖縄住民の切望です。日本全国及び

長年におわたり念願でありませう。他

方、沖縄の復帰に当たっては、日米双方

共に充分の準備が必要であり、不

十分な準備を遺漏なく整えてこそ円滑

な本土復帰の期しを期せざるを得ない

は言及せざるを得ません。

従って、沖縄復帰日の決定に当

GA-6

外務省

7214、一日も早く、緩急業現を念
 頭に、与えたいの請準備の要する期
 間と準備の考慮の結果、本年1月
 の代議首相とマシノ大佐館との合
 議、サン・フランシスコ合議に於いて、5月
 15日緩急」が決つたわけである。
 何れも米日間に14月10日迄に
 活の声があるから、大佐館は
 首相の要望を要するから、5月15日に
 同意したとあり、「5月15日緩急」
 は日米双方の緩急準備の面から

1172、可能な最も早い時期に
 ありたい。(以下)

問2. 沖縄の核放棄は迅速に、本当に

迅速に任せるべきか。

答 沖縄の「核放棄」迅速に、1969年

11月の日米共同声明で決定した

とおり、日米最高当局間の平等

相互理解と信頼の基に確約した

こと、その実施については十分な

の余地があることあり、また、

迅速な交渉は、ある程度、十分

に明確にされた。協定は、

その核の廃止は、本邦の利益に

省の「核」沖縄迅速に年次文

に明記した。核放棄、

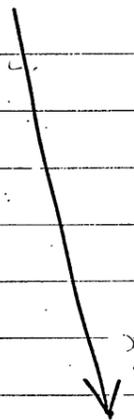
迅速に明確に約束された。

しかしながら、核の廃止は沖縄

住民の感情を十分理解し、

昨年11月24日の衆議院

非



核決議の標記も十年算定すべき

であること。協定上の約束以上の条件

要求があるという意味ではなく、感情的

に比定し条件を入れたという意味では

沖縄返還時に、443核の存在は

を確保した（今までの方法が正しいと

おぼつかず、原則とを結合して行なうこと

を要した。

その結果、15回のサンゴウキヤ

会議において、サンゴウキヤの存在は

核を相対的に、沖縄に443核

兵器の減少と米国の研究、確保の如

き金の確保と米国の研究、確保の如

き金の確保と米国の研究、確保の如

き金の確保と米国の研究、確保の如

由3. 復帰後の沖縄の米軍基地は、整

理縮小されるのか。

答 復帰後の沖縄にある米軍基地の

整理縮小については、サンフランシスコ

合議における佐藤首相と福田外

相とのやりとりで述べ、在沖

米軍施設・区域、特に人口密集

地域及び沖縄の産業開発と密接

な関係にある地域にある米軍施

設・区域は、復帰後の必要に整

理、縮小されるべきであるとされている

理由を説明した。一時的に

米軍基地、日米双方の同意による

施設・区域の調整を日本が主導的

な目的に給いつつ復帰後に行うに当

り、その必要は十分考慮に入

れられた旨を答えておられた。

従って、復帰後整理、縮小され

るべき施設・区域については、今後

日米間における是等の協議が

進められたらよいとされている。

中(同日)
前(連)の

サンフランシスコ合議の後の話合い

の沿革を十分踏まえて、他地沖

縄の要望も十分に考慮を払い

請求の理由も十分考慮を払い

内2. 沖縄の核抜き返還は、本当に内

遣いになるのか。

答 沖縄の核抜き返還については、

1969年11月の共同声明第4項によ

り約束されたこと、返還時

に沖縄の核がなくなることを

保証するものとしてあり、

しかしながら、核の国は沖縄新

設の意向も十分理解でき、本

昨年11月24日の衆議院の643非

三島：協定は七条の四を理想とする(内閣) P.47 (3)